



「カジノ」解禁は直近の課題となった ― 国会に新たな動き ―

SHINGO - SCOPE 1月号が皆様にFAXで電送されていた1月3日、静岡新聞に掲載された小さな記事は、未だ寝ぼけ眼の私を思いきり覚醒させたのであります。

「批判もあるところですが、数年来、本市の将来像としてコンベンション都市を考えるならば、日本平山頂の「カジノ構想」を具体化すべしと声高に提唱してきましたが、その日の新聞記事は「カジノ合法化を目指す」との見出しで国会の最近の動きを伝えておりました。

ご案内のように、自民党のカジノ検討小委員会は2006年には基本方針を策定、その中で事業主体については「公設民営」型として、当面は国内2、3ヶ所で導入することなどを決めて今日に至っております。

2日開催の自民党観光特別委員会における合意は、禁止されているカジノを合法化するために、議員立法によって「カジノ・ゲーミング法案(仮称)」を提出し、また「カジノ」に纏わる不正や犯罪監視のため、行政調査権を持つ「カジノ管理機構」を新設し、①、民間事業者への認可や立ち入り ②、従業員やディーラーの身辺調査、監視 ③、使用される機器の認証など、この組織に強い権限を持たせるなどの具体的内容が審議されているのであります。

このことは、「カジノ」を取り巻く環境がここに来て一気に動きだした表れであり、恐らく「観光庁」の新設に伴い、外国人観光客の誘致や地域振興に期待する各自治体の声が特別委員会を動かしたものと考えます。

殊に、沖縄では今年中に認可されるとの噂もあり、既に「カジノ」誘致の旗揚げをしている全国20余りの都市もこれを契機に俄然、国に対し働きかけるものと思えます。

云うまでもなく、本市には大規模工場を誘致できるほど廉価の土地はありません、地域経済を担った商業も大規模店舗の出店に潰され、嘗ては恵まれたお茶やみかんの生産も後進地域の追い上げ、更には後継者不

候補者の擁立にも常識を

昨日、久しぶりに片山虎之助氏の講演を聞いた。

内容については、昨今の税制問題が基調だったが、参議院当時の「歯に衣着せぬ」語り口調と卓越した見識は相変わらずのものでした。れにしても昨年の悪夢とも言える参議院選挙において、岡山県の有権者の選択に今更ながら呆れ、惜しむところでありませぬ。

何も私が自民党所属だから云うわけではありませぬが、自治省出身の雰囲気をおくびにも感じさせない片山氏の政治に対する見識と姿勢は他の多くの政治家の範となるべき人材であります。

ところで、その片山氏に予想外の結末を与えた昨年の参院選挙において、民主党が擁立した「姫井由美子」を当選させた原動力は何と云っても野次馬根性の報

足が重なる、その将来に陰りをみるのであります。ここに至って本市の将来像をどのように見据えるのか、そして活性化の糸口は何を考えるのか、誠に寂しい限りであります。

畢竟、本市の恵まれた立地を活かす都市づくりこそが、今、我々が選択する道であると考えます。

本州のど真ん中、四季の気候に恵まれ、交通機関は陸海空の全てが整い、市民生活とは隔絶された山間地、更に富士を背景とする絶好の景観など日本平山頂はカジノ設置に最も適した場所と言えるのであります。

については、市行政はもとより商工会議所を始めとする経済界が早急に「カジノ招致」のゼット旗を掲げて頂きたいと存じます。

道機関でありました。

恐らく当初、民主党は対抗が強力な片山氏では所詮歯がたたない相手と目論み、候補の擁立を諦めていたところ、不倫騒動を初め些か評判の悪い女性ではあったが、煽ててみれば出馬の意思があると見た民主党は、「姫の虎退治」という日本昔話を創作、これを朝の無責任テレビ番組に売り込み、選挙戦を「お笑い番組」に構成したのであります。その結果、今日のわが国の政治に必要な人材を抹消し、今、週刊誌に話題提供の役割を担う破廉恥な参議院議員が誕生したのであります。

今年には新春早々、衆議院の解散、総選挙が執り沙汰されております。ガソリンの暫定税率問題の行方によつては、年度始めも囁かれています段階、各党の候補者選考も佳境を迎えておりますが、国民が落胆するような選考は是非避けていただきたいのであります。

駿府におけるキリシタンへの迫害 — 桔梗川の謂れ —

秀吉の命で朝鮮に渡ったキリシタン大名・小西行長は、朝鮮貴族の少女「阿滝」(洗礼名ジュリア)を伴って帰国、駿府城の大奥に家康の侍女として送り込んだのでした。この時、「ジュリア」の悲惨な運命の始まりでした。

後に記載しますが「千人塚」の存在も、切支丹の悲しい歴史の証明ですが、先ずは駿府城内における「キリシタン迫害の歴史」を紐解いてみましょう。

駿府でのキリスト教の始まりは、慶長12年イエズス会の宣教師が家康に謁見し布教の許可を願い出たが、すでにこの頃、城下と安倍川の二ヶ所には南蛮寺があり、年間1千人以上の洗礼が行われていたと物の本にあります。

慶長17年、駿府城内で賄賂事件が発覚、犯人岡本大八を調べていくうちに駿府城内には多くのキリシタン信者がいる事がわかり、家康を驚愕させたのでした。

何よりも家康自身が寵愛する「ジュリア」をはじめ侍女の中にも、信頼していた家臣の中にも切支丹信者が存在を知った家康は、怒髪天を衝く勢いで先ず宣教師を追放、つぎに「伴天連追放之令」を全国に布告したのでした。

家康の説得に応じなかったジュリアは島流しとなり、網代から大島そして神津島と

転々としながら寂しい生涯を終えたのであります。

また、直参旗本の原主水も、指や耳を削がれ、追放されて牧ヶ谷にある耕雲寺に逃れ、住職に保護されたが、間もなく発見され住職と共に処刑されました。

さて、城内の切支丹迫害とは別に庶民の信者への弾圧も凄まじいものであった。今では残念ながら確認できませんが、安倍川寄りに「千人塚」があったといわれています。

千人塚の名前の通り「伴天連追放之令」によつて千人余りが処刑され、この地に埋め

られたという、その際、人々の鮮血は川に注ぎ、下流を暗紫色に染めたことから、爾來この川を桔梗川と命名されたのでした。

「桔梗川」の名前も川の存在も今では殆どの市民が忘れてしまったのは、新川や中原方面が宅地化され、都市化する中で住民の暗渠化の要望が高まり、今日では第2雨水幹線として地下に潜りてしまいました。

ただ中原桔梗公園にその名前が残っているだけです。

大御所時代、この駿府において徳川家康の切支丹弾圧によつて水野忠重、など何十人もの武将や千人余の無名人々が処刑された歴史は殆ど知られていません。

一寸一言

私の雑記帳から
誕生日を迎えて

この2月2日が私の66歳の誕生日です。

昨年、母は90歳をもって他界しましたが、その父と母に抱かれて兄と私は昭和17年2月8日の静岡新聞に写真入りで掲載されました。

紙面の見出しは「大きな双子の赤ちゃんが誕生」とあり、記事によれば双子の体重は合わせて6,500g、超大型の新生児であります。

時代は、産めよ増やせよが国民の合言葉、国策に従った両親はわずか2年8ヶ月の間に

ナント4人の子持ちになっていたのであります。

私が中学校に入学した時、子だくさんの家族を実感しました。即ち僅か3学年の東中学に一挙に4人在籍するところとなったのであります。

恐らく東中学校に於ける同家族の在籍人数は破れざる記録ではないかと思いますが、「血は水よりも濃い」の諺通り今は誰もが「多産の母」に感謝しているところでありませぬ。

近い将来、一人つ子同士の結婚によつて、従兄弟や叔父・伯母など全く存在しない家庭が増えてくるでしょう。その時愈々、孤独な世界観が若者達に襲いかかることを憂慮する処であります。

うるう年はお得?

うるう年とは、「4年に1回、2月が29日までになる」年。地球の公転周期で1年間を決めてしまうと、自転の整数倍にはならないので、何年かに1度、1日多い日を作って補正しており、その年を「うるう年」といい、他の年は「平年」と呼ばれます。

日本で現在使用されているグレゴリオ暦では、「4」で割れる年をうるう年とし、「100」で割れる年は平年として定められています。例えば、1800年、1900年は「4」で割れ、なおかつ「100」でも割れるので、2月は28日まででした。

そしてもうひとつ、「400」で割れる年はうるう年とするルールがあり、8年前の2000年はうるう年となりました。

天文学的なルールはさておき、年度末を控え何かと忙しい2月が1日増えるというのは、なんだかお得な気がします。2月29日ともなれば、春はもうすぐそこ!

新しい季節の訪れに胸を弾ませて、うるう年ならではの1日を楽しみたいものです。

急増した私のホームページのお客さま

つい最近まで一日平均120件程度のご利用でございましたが、ここに来て突然300件以上のアクセスがあります。

ホームページの開設は4年ほど前でしたが、2年ほど前、知人の勧めもあってスタート、今は月12回程度、遠慮なく自身の主張を書き入れております。関心がありましたら、開いてみてください。